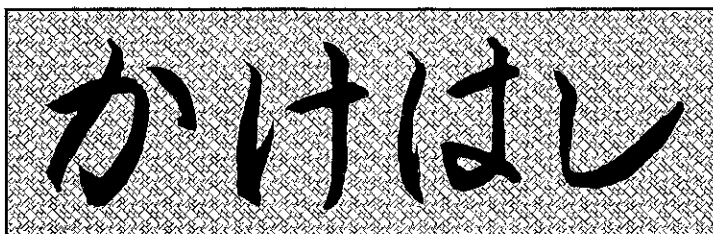


◆発行◆

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課
いわき市少年補導員
連絡協議会



◆連絡先◆

平少年センター TEL 22-5431
小名浜少年センター TEL 54-1890
勿来少年センター TEL 63-3467
常磐少年センター TEL 43-2305
内郷少年センター TEL 26-2974
四倉少年センター TEL 32-2920

いわき市少年補導員について

令和3年4月よりいわき市少年補導員として、市民及び教職員236名に委嘱状を交付し、その任期の2年間、市内7方部において、青少年の非行化を防止し健全に育成するための活動に従事していただいています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、密を避けるために活動人数を縮減し、青パトでの巡回パトロール等を中心とした活動に代替した期間もございましたが、主な活動としては、地域の中で問題が起きそうな場所や、たまり場、危険な場所などを午前・午後・夕方・夜間と、それぞれの時間帯に巡回する街頭補導を実施し、問題を持った青少年や問題を

起こしそうな青少年を早期発見し、非行を未然に防ぐとともに、思いやりのある温かな声かけを行いながら、青少年をとりまく有害な環境の浄化に取り組んでいます。

近年の社会は、少子化や情報化等の急激な変化により、人々の価値観や生活様式が多様化し、人間関係の希薄化や地域社会のコミュニティ意識の衰退等で、子どもが生きづらい社会とされています。青少年を取り巻く環境も大きく変わり、インターネットを介したコミュニケーションやそこから起こるトラブル等、外からは見えにくい問題が増加しています。そのような中、少年補導員は、日々の活動の中で、積極的に子どもた

ちに声かけを行い、地域の大人が見守っていることを身をもって伝えていきます。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、外出の自粛等もあり、子どもたちもストレスを感じていると思いますが、補導活動を通じて子どもたちに寄り添い、心をなごませ、非行や犯罪から守っていきたくと考えております。



いわき市少年補導員連絡協議会長として

いわき市少年補導員連絡協議会 会長 伊藤 浩一

初めに、令和3・4年度のいわき市少年補導員連絡協議会会長に選任されました四倉・久之浜方部会長の伊藤と申します。昨年度まで、長きにわたり会長を務められた松崎会長とは、経験やリーダーシップなど比べものになりませんが、これからの2年間、微力ながら務めさせて頂きたいと思っております。

さて、今年度も新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、市内7

方部の補導員の皆様、学校の先生方、市の関係職員の方々におかれましては、補導活動にも制限がかなり従来の補導の仕方が変わったり、各研修会や勉強会、青少年育成大会といった催しが全て中止になっている状況です。このコロナ禍により、私たちを取り巻く環境や生活様式、補導活動が一変しました。

また、私もPTA活動、補導活

動を20有余年経験してきましたが、現在は非行やいじめなどの犯罪行為がインターネット等の普及などで、デジタル化してきました。アナログ育ちではついていけないのが現状です。しかし、時代が変わり便利な世の中になっても人としての道徳や教育は変わることは無いと思っております。

次の世代を担う子どもたちのために、感染防止対策を徹底し、関係機関、団体と協議または連携を図りながら、安全な補導活動を行っていきましょう。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

『密を避け 自分を守る 家族もね』

令和2年度「新型コロナウイルスに関する標語」小学校の部 最優秀賞 川田 隆晟
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

うえだふれあい広場 サポーターに参加して

勿来方部

補導員 赤津 光

JR植田駅舎内を借り、子どもや高齢者の見守り活動と地域の安全安心確保、非行防止、青少年の健全育成を図る「うえだふれあい広場」のサポーターとして活動して約1年になりました。サポーターに参加したきっかけは、定年になり時間的余裕ができたという単純なものでしたが、できるだけ長く活動していきたいと思っています。

活動の中で児童や生徒と触れ合う折に、子どもたちの素直さや純粋さにハッとすることが多々あります。こういう子どもたちを見ていると非行やいじめなどの想像はつきにくいですが、現実には甘くありません。コロナ禍の中、補導活動を制限されますが、これから世の中を築いていく子どもたちに微力ながら寄り添い、見守り活動を続けていきたいと思っています。



これからの青少年の補導とは

小名浜方部

補導員 山崎 雅弘

私は、青少年の補導活動に参加して間もなく25年になります。その頃の補導は、高校生の駅周辺や近隣公園等での喫煙や深夜徘徊など、目に見える所での不良行為への声かけが中心でした。そして、通信手段と言えばアナログの携帯電話でしたが、今はデジタル化が進み、友人同士の会話もすべてスマホに頼る時代になりました。それと共に、子どもたちも屋外から季節感のわからない屋内へと変化し、近年の新型コロナウイルスの影響もあり、ますます屋内にいる時間が長い環境になっています。

また、公共交通機関の列車や、バスの車内でも以前は、会話や笑い声で賑やかだったのが、今はスマ

Report

木の画面にくぎ付けで、生き生きとした活気が感じられません。これからの少年補導の形を、考えてゆく必要があるのかもしれないですね。

ネットのトラブルから 子どもたちを守ろう

平東方部

補導員 根本 浩一

私はいわきメディア指導員をしております、主に小中学生向けにインターネットの安全な使い方などをお話しています。その中で最近気になっていることが、コロナ禍で子どもたちのインターネットの利用時間が増えており、ネットの特性を知らない小学生など年齢が低いほど、トラブルが多く発生していることです。子どもたちは、動画を見たり、SNSで連絡を取ったり、オンラインゲームで遊ぶことなどに多くの時間を使っていますが、そのほとんどが小学生以下では使用を推奨されていないものばかりです。今年、小中学生に1人1台のタブレット端末配布が行われ、インターネットに関わることも増えると思います。使い始める時の指導、保護者の監視下で使わせるなど、子どもたちをトラブルに巻き込まれないようにする大人たちの努力が、これまで以上に必要です。



現代の子どもたちの環境

四倉・久之浜方部

補導員 吉田はるみ

補導員になってあっという間に18年が経ちました。なりたての頃は授業が始まっている時間に学生

『我慢する ただそれだけで 誰かを守る』

令和2年度「新型コロナウイルスに関する標語」中学校の部 優秀賞 原田 恭佑
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

街頭補導活動レポート

を見かけることもありましたが、最近では、そういう子どもたちもいなくなった気がします。

以前、少年アドバイザーさんに「今の子どもたちはきちんと学校にも行くしあいさつもできる。でも、どんな行動をしているのかは見えづらくなった」という話を聞いたことがあります。確かにスマホやパソコンがあれば、部屋の中でインターネットを利用してSNSなどで情報を取得・発信できるし、友だちとつながることもできます。しかし、間違った使い方をすると事件やいじめにつながってしまうこともあります。なかなか見えにくい部分ですが、大切な子どもたちを守るために、親はもちろん周りの大人たちもしっかり見守っていかなければならないと改めて思いました。

地域みんなで 愛ある一声と見守りを

平西方部

補導員 関場いつ子

10数年前、午前中の補導をしていると、学校が始まっているのに、丹後沢公園やイトーヨーカドーで高校生のカップルを見かけ、「学校に行きなね」と優しく声をかけると「今から行きまーす」と明るく返事をしてくれたことを思い出します。

今はコロナ禍で学生の姿をほとんど見かけませんが、不審者から子どもたちを守るため青パトでの補導を継続しています。私の住んでいる地域は民家が少ない所なので、登下校時間帯には、クリーニング店のおじさんが毎日お店の前に立って子どもたちに声をかけてくれます。トイレを借りる事も本当にありがたいです。私も野菜直売所から「おかえりー」と声をかけます。ランニングをしている高校生は元気にあいさつをしてくれます。これからも、地域みんなで子どもたちを見守っていきましょう。

補導員として思うこと

常磐方部

補導員 柳内 恭正

私が補導員になるきっかけは、知り合いの方から

のお誘いでした。私で大丈夫なのかなと不安もありましたが、お引き受けをして4年余りが過ぎようとしています。月に一度少年アドバイザーさんと他の補導員メンバーと一緒に自分たちの地域を巡回するのですが、今は昔のように駅前などに集団で居たり、たばこを吸ったりしている子どもたちの姿を見かける事はなくなりました。声かけを中心に活動し、学校の帰り道で少年アドバイザーの方が「気をつけて帰ってね」と声をかけると「ありがとうございます」と返ってくる事もあります。補導員として思う事は、私も微力ながら地域の安全見守りに一緒に参加する事ができて良かったということです。今後も地域のお役に立てるように心がけていきたいと思っています。



昔も今もこれからも

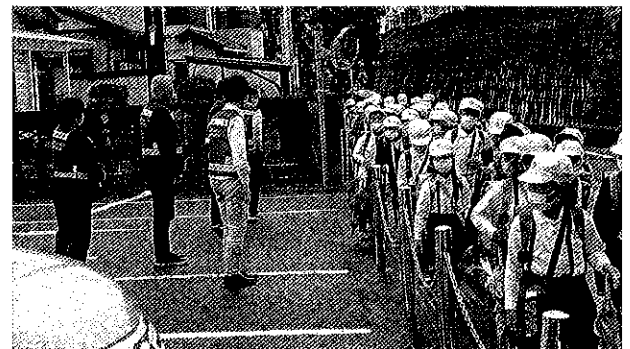
内郷方部

補導員 佐藤 珠美

長引くコロナ禍、補導活動も自粛が続く中、日常生活における行動制限も拍車をかけ、改めてもどかしさを感じる今年度となっています。9月の補導も青パトのみの巡回という状況です。

ところで、私たちの活動のひとつとして、毎年内郷地区の小中学校に図書カードを贈らせていただいています。わずかですが何かの役に立てて欲しいという気持ちです。補導関係の行事中止も相次いでいますが、それのみ今年も予定通り実施できる事、ホッとしています。

補導や図書カードを贈るなど、形は違っても子どもたちと関わりたいとの思いを発信する方法と考えます。かつて私たちも地域の方々から、その時代ならではの形で温く見守られていたように……。そんな思いが世代を越えて受け継がれていく事を願ってやみません。



『思いやり 感染予防の 第一歩』

令和2年度「新型コロナウイルスに関する標語」中学校の部 優秀賞 吉成 美晴
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

事業紹介

～令和2年度いわき市少年補導員一日体験教室～

「いわき市少年補導員一日体験教室」は、小・中学生の保護者に、街頭補導業務を体験していただき、少年補導員の活動や青少年の行動実態を認識してもらうとともに、少年補導員としての新たな人材の発掘及び育成を図ることを目的として、毎年開催しています。

令和2年度は、内郷方部の保護者5名に参加いただき、本市の少年補導の概要や補導員の心得などを説明した後、補導車による街中の巡回や青少年への声かけなどを体験していただきました。



一日少年補導員の委嘱を受ける参加者

新任方部会長から



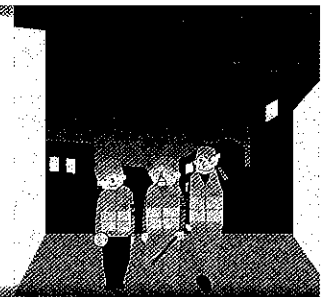
常磐方部 補導員 上村 直人

補導員に就任した頃、よく先輩補導員の皆さんから「補導に際しては常に愛情を持って接すること」と教えられました。接し方も幅広い年齢層の補導員にはそれぞれに特徴があると思います。時には兄貴のように、また親のように、またある時は、孫を想う祖父母のように愛情をかけて接しています。ただ大事なことは愛情が子どもたちに伝わっているかどうかです。子どもたちに「愛されているなあ!」と感じてもらえる補導に努めていきたいと思っています。

不審者情報に基づく巡回パトロール

不審者情報の件数は、令和元年度の79件に対し令和2年度は62件と減少しました。今年度も減少の傾向にあります。不審行為の内容は、児童・生徒への声かけ・盗撮・露出・腕などを掴む等の悪質な行為が後を絶ちません。

このことから、悪質行為の抑止力となるよう、名入りベストの着用や青色回転灯の点灯車両による「見える補導、見せる補導」を実施しています。



街頭補導の状況

令和2年度は、計716回の街頭補導活動を実施し、延べ1,831人の補導員が従事しました。

街頭補導活動における補導件数は全て自転車に関するもので、「無灯火 2件」、「二人乗り 6件」、「スマートフォンを見ながらの運転 1件」、「危険運転（ウィリー走行）1件」の合計10件でした。

令和元年に比べ2件増加しています。これは、新型コロナウイルス感染防止のための外出自粛等によるストレスもあると思います。自転車は便利な乗り物ですが、運転次第では危険な乗り物になることも忘れないでいてもらえるよう、今後も継続して声かけをしていきたいと思っています。



補導日誌から

- 公園とその周囲で10人程度の小学生が自転車で乗ったりして遊んでいたため、事故に遭わないよう気をつけるように声かけしたところ、元気な返事があった。
- 駅前の歩道上に自転車3台を倒して話をしている高校生を見かけたので注意・指導した。
- 一斉下校する児童たちに「気をつけて帰るよう」声かけし、その児童たちを見守る地域のボランティアの方にも感謝の声かけを実施。
- 下校中の生徒に声かけをしたところ、先生が同乗していたため多くの生徒が元気に返事をしていた。
- 列車補導で、声をかけながら列車内を巡回すると、あいさつを返してくれる高校生が多くいた。
- 高校生が数名、自転車で走っていて1台が無灯火だったので注意した。

『大丈夫？ その場所・その距離・その意識』

令和2年度「新型コロナウイルスに関する標語」中学校の部 最優秀賞 佐々木 美樹
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)